

たばた議員

(1) 学力テストについて

昨年11月、文科省が来年度の全国学力テストについて、対象学年全員に実施し、その結果の公表を自治体に任せるとの実施要領を発表した。このことについて、当市の方針を伺う。

テスト結果の公表は無意味な競争をまねき、豊かな学力の形成を妨げるおそれがあると考えます。市教育委員会として、学校別の結果を公表すべきではないと考えますがどうか。

同様の理由で、仮に東京都教育委員会から公表の同意を求められた場合、拒否すべきと考えますがどうか。

(2) 小中学校における性同一性障害への対応について

小中学校の性同一性障害について、文科省が、現在問題になっている事例やなんらかの対応を取った事例についての全国的な調査を行なっている。すでに平成22年4月付事務連絡「児童生徒が抱える問題に対する教育相談の徹底について」の中でも「児童生徒の心情に十分配慮した対応を」との通知がされており、当市でも配慮すべき問題である。

当市ではこれまで性同一性障害の児童生徒について、なんらかの対応をした事例があったか。

他の児童生徒がそうであると同様に、性同一性障害の児童生徒にとって、学校が自身を受け入れていると感じられ、相談でき、自己評価を高めることができる環境であることが求められている。教育関係者への、性同一性障害についての理解を深める努力はされているか。

(3) 男女共同参画について

高齢化社会に伴う働き手の減少により、女性の労働力があらためて注目されている。一方で、国連女子差別撤廃委員会からも再三改善を促されているとおり、女性の雇用や政治的・公的活動への参画は遅れている。当市における男女共同参画の取り組みの一端について質問する。

上記委員会より地方公務員への女性の参画拡大として、女性職員の登用・キャリア形成支援等を進めるべきという勧告が出ているが、当市での取り組み状況は。

女性の雇用を進めるために取り組んでいる、市内事業所での女性も働きやすい環境づくりの施策は。

女性の社会参加のためには、パートナーである男性の協力が不可欠である。市民の規範ともなる、男性職員の育児休業・介護休業取得率の向上のための取り組み状況は。